

自然 Nature

1 不動滝(大内地区) MAP D-4

夏は涼感あふれる幅の広い滝です。冬場の1月下旬から2月上旬頃には全凍結した幻想的な姿を見ることが出来ます。凍結時の高さは約25m、幅は約15mあり訪れた人々を魅了しています。



2 ウバヒガン桜(筆甫地区) MAP B-3

筆甫地区にある高さ約30m、根の幹周約10m、樹齢500年以上と推定される町指定天然記念物です。4月下旬には毎年、淡く小さな花を咲かせます。



3 丸森大銀杏(丸森地区) MAP C-2

樹齢600年以上と推定される高さ約42m、根周約17mの銀杏の大木です。宮城県天然記念物に指定されています。

6 岩岳(筆甫地区) MAP C-3

岩岳一帯は水墨画を思わせるような美しい景色です。風化により作られる岩塔と呼ばれる巨大な岩が建ち並び、自然林とともに見事な景観を作っています。岩岳は縁起を歩いて山頂まで登ることができ、その景色を一望できます。



文化 Culture

1 齋理屋敷(丸森地区) MAP C-2

江戶時代後期から昭和初期にかけて、阿武隈川の舟運をきっかけに七代にわたり栄えた豪商、齋藤理助の屋敷です。その屋敷および収蔵品すべてを町が譲り受け、「蔵の郷土館」として開放したのが齋理屋敷です。詳しくは1、2、13ページ上段をご覧ください。



5 台町古墳群(丸森地区) MAP C-2

前方後円墳や大小の円墳が約200基群集しており、埴輪や鏡、勾玉、刀などが出土しています。



6 たたら製鉄(筆甫地区) MAP B-4

江戸時代、キリシタン武士(東海林備後)によって伝来されたという「たたら製鉄」ですが、2002年に筆甫地区の「復元する会」によって約370年ぶりに復活しました。鉄の原料である砂鉄は阿武隈川の河原から採取し、製鉄は年4回行われます。



4 館矢間ひまわり畑(館矢間地区) MAP C-1

9月中旬に秋咲きのひまわりが一面に咲き誇ります。丸森町の秋の風物詩となっており、ひまわりまつり開催期間中は直売所も開設され、毎年賑わいを見えています。



7 百々石公園(丸森地区) MAP C-2

丸森の街並みや阿武隈川を眺めることができる眺望の良い公園です。また公園内には野花にあふれ、春にはサクラやツツジ、夏にはアジサイやヤマユリ、ヤマハギなどが咲き乱れます。



8 大張沢尻棚田(大張地区) MAP B-1

阿武隈川沿いの国道349号線から脇道に入り、山を登ると「日本の棚田百選」に選ばれた景色が広がります。春には水の張った水田がキラキラと輝き、秋には顔を垂れた黄金色の稲穂が郷愁を誘います。



9 笠松(丸森地区) MAP B-1

この地域の地名の由来となったと言われる幹周3mを超えるアカマツの古木です。左右に大きく広がったその姿は歴史を感じさせる佇まいです。丸森町の天然記念物に指定されています。



10 水芭蕉群生地(筆甫地区) MAP B-4

水芭蕉(ミスバショウ)は丸森町筆甫にある聖地帯の雑木林の中、清水の流れるところに群生しています。4月中旬～下旬頃つと花を咲かせます。



丸森町 全域マップ MARUMORI MAP

- ①～⑩ 6ページ、7ページ **自然** に詳しく掲載
- ①～⑨ 8ページ、9ページ **文化** に詳しく掲載
- ①～⑥ 10ページ、11ページ **楽しむ** に詳しく掲載

February	2月 月中旬～3月下旬 雛まつり 齋理屋敷	May	5月 月上旬～中旬 たけのご狩り体験 餅野 第2土曜 丸森いち 丸森中心部
March	3月 第2日曜 奉射祭(やぶさめ) 小斎鹿島神社	August	8月 月上旬 竹とうろう祭り 齋理幻夜 齋理屋敷
April	4月 月中旬～5月下旬 丸森スタンプラリー 4月中旬～5月下旬 端午の節句 齋理屋敷 下旬 愛敬院 春まつり 愛敬院		

楽しむ Have fun

MARUMORI☆Green Tourism

丸森型グリーン・ツーリズム

「阿武隈ライン舟下り」不動尊公園キャンプ場「滞在型市民農園(クラインガルテン)」に代表される自然体験型観光や「齋理屋敷」を中心とした「歴史・文化体験型観光」、そこで提供される自然や農業による「学習・体験型イベント」に加え、「直売所」などにおける町民との「ふれあい交流」や「おもてなし」などの全てを丸森型グリーン・ツーリズムとして推進しています。

1 阿武隈ライン舟下り MAP C-1

阿武隈川の舟運の名残を今に残す舟下り、四季折々の丸森町の情景を味わうことができます。味わうといえは、秋の食材がたっぷり入った「いも煮」を船上で食べることができ、「いも煮舟」が秋に連航します。また、暖かいコタツに入りながら冬の景色を楽しむ「こたつ舟」も好評です。

2 不動尊公園キャンプ場 MAP C-3

阿武隈深谷県立自然公園内にあるキャンプ場です。緑にあふれた森に、魚釣りや水遊びをする子どもたちの歓声が響きます。また、コテージも8棟あり、専用のかまどでバーベキューやいも煮などのアウトドアクッキングも楽しむことができます。

3 丸森ウォークラリー大会 MAP 丸森町内特設コース

チェックポイントごとのしかげとおして丸森町の魅力を感じてもらおう学習体験型イベントです。コマ図とよばれるウォークラリー特有の地図に沿って進み、出題された問題を解決しながら時間点と課題点の合計で順位を競います。毎年秋に開催され、秋色に染まる丸森町の自然を満喫できます。

4 サイクルフェスタ丸森 MAP 丸森町内特設コース

毎年秋に行われるサイクリングイベントです。町外からの参加者が多く、丸森町の自然あふれる景色を存分に肌で感じるすることができます。コースはショートコースとロングコースの2種類があり、入門者から上級者までが楽しめるものになっています。

5 国民宿舎あぶくま荘 MAP B-2

内川渓谷を望む眺望が楽しめる国民宿舎です。地元の食材を中心とした料理で宿泊客に大好評です。また、大浴場は日帰り入浴も可能で、観光に訪れた方の疲れた体を癒してくれます。

6 旗巻古戦場跡(大内地区) MAP D-3

戊辰戦争の最中に熾烈な攻防が繰り返された旗巻砦。その一帯に藩士の戦死塚、砲臺跡などが残り、歴史の重みを感じることが出来ます。

7 筆神社(筆甫地区) MAP B-3

筆まつり地名にちなみ地域おこしとして建立された神社です。毎年11月には「筆奉納」などを行う「ひばまつり」が行われ、観光客で賑わいます。

8 阿弥陀堂(筆甫地区) MAP B-3

慶長17年(西暦1612年)頃、キリシタン武士(東海林備後)が一族で筆甫に移住し、マリア像を礼拝するために屋敷の裏山にこの阿弥陀堂を建立しました。

伊具三城

2 丸山城跡(丸森地区) MAP C-2

伊達家十四代当主「補宗」(政宗の曾祖父)が晩年17年間の隠居生活を送った城が丸山城です。今も補宗の墓が残っています。

3 柴小屋城【小斎城】(小斎地区) MAP C-1

伊達氏と相馬氏の争いが激しかったころ、丸山城と同じく戦略的に重要な城として現在の障場山・八重垣神社のあるあたり、丘陵地の開けた土地に城がありました。平成25年には城から眺めるを再現できる「物見やぐら」が造られ、小斎地区を一望できるようになりました。

4 丸山城跡(金山地区) MAP C-2

永禄年間に相馬氏の家臣井戸川将監、藤橋紀伊守が築城したと言われています。その後、相馬氏と伊達氏の争いの渦中にありましたが、天正12年(1584年)に丸山城は伊達氏の支配する所となりました。その戦いの中で功績があった佐原城主中島宗家は金山・大内(伊達)に二千石を与えられ金山城となりました。丸山城は仙台藩の南の要所として江戸時代を通じてこの地域を守りました。

7 筆神社(筆甫地区) MAP B-3

筆まつり地名にちなみ地域おこしとして建立された神社です。毎年11月には「筆奉納」などを行う「ひばまつり」が行われ、観光客で賑わいます。

8 阿弥陀堂(筆甫地区) MAP B-3

慶長17年(西暦1612年)頃、キリシタン武士(東海林備後)が一族で筆甫に移住し、マリア像を礼拝するために屋敷の裏山にこの阿弥陀堂を建立しました。

9 旗巻古戦場跡(大内地区) MAP D-3

戊辰戦争の最中に熾烈な攻防が繰り返された旗巻砦。その一帯に藩士の戦死塚、砲臺跡などが残り、歴史の重みを感じることが出来ます。

10 サイクルフェスタ丸森 MAP B-1

この地域の地名の由来となったと言われる幹周3mを超えるアカマツの古木です。左右に大きく広がったその姿は歴史を感じさせる佇まいです。丸森町の天然記念物に指定されています。

11 丸森ウォークラリー大会 MAP B-1

チェックポイントごとのしかげとおして丸森町の魅力を感じてもらおう学習体験型イベントです。コマ図とよばれるウォークラリー特有の地図に沿って進み、出題された問題を解決しながら時間点と課題点の合計で順位を競います。毎年秋に開催され、秋色に染まる丸森町の自然を満喫できます。

12 丸森ウォークラリー大会 MAP B-1

チェックポイントごとのしかげとおして丸森町の魅力を感じてもらおう学習体験型イベントです。コマ図とよばれるウォークラリー特有の地図に沿って進み、出題された問題を解決しながら時間点と課題点の合計で順位を競います。毎年秋に開催され、秋色に染まる丸森町の自然を満喫できます。

13 丸森ウォークラリー大会 MAP B-1

チェックポイントごとのしかげとおして丸森町の魅力を感じてもらおう学習体験型イベントです。コマ図とよばれるウォークラリー特有の地図に沿って進み、出題された問題を解決しながら時間点と課題点の合計で順位を競います。毎年秋に開催され、秋色に染まる丸森町の自然を満喫できます。

September	9月 月中旬～下旬 ひまわりまつり 館矢間 9月上旬～11月上旬 かかしまつり	November	11月 月中旬 丸森ウォークラリー大会 23日 ひばまつり 筆甫神社 下旬 自然著じゅうねん取極祭 丸森 下旬 ころ餅作り体験会 餅野
October	10月 月上旬 サイクルフェスタ丸森 下旬 全日本石投げ選手権 阿武隈川河川敷	December	12月 月中旬～1月下旬 齋理の歳迎え 齋理屋敷 下旬 丸森ウォークラリー大会 丸森

齋理屋敷

古き良き日本の情景を残す丸森町の中心街。その家並みの真ん中に、数棟の蔵を従えた堂々たる町屋建築の屋敷が建っています。この建物は、江戸時代後期から、呉服や薬、味噌醤油の醸造、金融業など、幅広い商売を手がけ、昭和初期まで七代続いた豪商・齋藤家の屋敷。代々の当主が齋藤理助を名乗ったことから「齋理屋敷」と呼ばれるようになりました。齋藤家は、明治以降には小学校の建設と地域振興にも尽力しましたが、東北本線が白石経由で敷設されるとは徐々に活力を失い、齋藤家も第二次世界大戦後に閉業、昭和61年(1986)、屋敷と蔵の収蔵品が町に寄贈されました。町は収蔵品を調査し、屋敷や蔵を整備、2年後の昭和63年(1988)、「蔵の郷土館」として開館しました。東京1-0のグラウンドの約半分に匹敵する約6500㎡の敷地内には、往事の屋敷が1棟、蔵が6棟、石造りの湯屋1棟、そして町が新設した2棟の建物の計10棟が立ち並んでいます。嘉永元年(1848)に建てられた屋敷内最古の建物である二階建て土蔵造りの店蔵のほか、蔵や石風呂など6つの建築物や工作物など併せて12の建造物が、平成22年(2010)、国の登録有形文化財に指定されました。町と郷土の歴史を伝える施設として、現在は「雑牛の節句」「齋理の歳迎え」「齋理の糺まつり」という3つの企画展のほか、特別企画展も開催。また、「シルク和紙・紙漉き体験」や、語り部たちが昔話を語る「齋理ざつとむかし」も定期的に行われています。そして、8月上旬には齋理屋敷とその周辺の通りを会場に、町いばんのイベントである「齋理幻夜」が繰り広げられます。開催されるのは、真夏の夜、限られたわずか3時間ほどの時間、通りに飾られた約1000基の手作り絵灯籠の幻想的な光の中に、どこか大正ロマンの影を滲れた街並みがゆらりと浮かび上がり、創作太鼓や舞踊、紙芝居、夜店など多様な催しが賑わいを盛り上げます。

阿武隈ライン舟下り

阿武隈川は延長239mで、東北地方では北上川に次ぐ長さを誇る大河です。那須川系の甲子旭岳を源に、福島県中通り地方を北流し、阿武隈山北麓の狭い谷間に抜けて宮城県に入り、亶理町荒浜で海に注いでいます。江戸時代には米沢や福島で産する米を運ぶ経路として利用され、沿岸の街は舟運で賑わいました。米は、福島から丸森までは小型の舟で運ばれ、丸森で大型の平田船に積み替えられて、荒浜から外洋を行く東回り航路で銚子(千葉県)へ、さらに利根川水系の水路を遡って江戸まで運ばれました。「阿武隈ライン舟下り」は、舟運華やかになりころの風情を伝える観光遊覧船です。丸森町から山元へ向かう河岸は「阿武隈深谷県立自然公園」にも指定された水と緑の自然美あふれるエリアです。大規模な丘陵地河川景観や、大岩が連なる黒色を立ち上げる断崖などを見晴らしながら、約11km、1時間の船旅が楽しめます。その新緑やヤマザクラの明るく眩しい光に包まれ、夏は涼風につつまつる夏の影を追い、秋は色づいたカエデやブナなど紅葉と黄葉の照り輝きに目を奪われ、そして冬はこたつ舟に乗って、名物「しんじ」を味わいながら水鏡のような岩や断崖を見上げる...渡り舟やトンプの群れ、雄大な阿武隈川の川面からの景色は、やはりひと味違います。「弘法の水」や「龍石」「白衣観音」など見どころをガイドしてくれる船頭さんの水先案内も楽しく、歌って丸森の民謡を聞きながら、川に浮かび、流れにまかせてゆたかと滑るように行く船旅は、四季それぞれに情緒を心に刻んでくれます。乗り合わせた人同士が仲良くなることも多く、また、冬のコたつ舟では船着き場についてもこたつから出たがらない方も多く、見知らぬ同士が「団らん」できるのも阿武隈ライン舟下りの魅力のひとつです。

小斎鹿島神社 奉射祭

小斎地区の鹿島神社は、平安時代初期の貞観8年に編纂された「日本三大奉射」には「常陸鹿島大神の鹿島神社伊具郡一社」と記されており、これが現在の鹿島神社と考えられています。また、飛行天皇の御代、日本武尊(ヤマトタケル)の東征の時、国家鎮護を祈願して創建されたとも伝えられています。そんな長い歴史を誇る鹿島神社では、毎年3月、五穀豊穡と地域の安全を祈願する「奉射祭(やぶさめ)」という、古式ゆかしい神事が行われています。「やぶさめ」は、馬に騎乗して弓を射る「流鏑馬」が有名ですが、鹿島神社の「奉射祭」は、立ったまま射るのが特徴。寛永20年(1643)、小斎佐藤家4代当主・清信公が行ったのが始まりです。明治時代以降は、中断と復活が何度も繰り返されてきましたが、平成3年になって完全復活しました。弓士10名は、前日から精進潔斎をして、当日も水垢離で身を清めます。その後、目標とした宮司が12本の矢を放つ「御射の神事」が行われ、小斎の12か月の天候を占います。この神事に使われる弓と矢はどちらも木の枝で作られるというユニークなものです。そして清楚な巫女たちが賑やかに舞う「巫女舞」のあと、10名の弓士による「大射射」と「雁(かりがね)」。が翼を広げた姿を描いた的を狙う「かりがね射射」と続きます。地域の鎮守神を大切に、作物の豊作を祈願するほか、かつては武芸の上達祈願と健康、精神の鍛錬という意味も込められていました。そして今では地域のイベントとしても賑わっていて、「かりがね射射」で100本の矢のうち何本が命中するかを当て「弓士クイズ」や「弓士体験」などが行われます。丸森町に春の訪れを告げる神事、遠方からの観光客も年々増えています。

阿武隈ライン舟下り

阿武隈川は延長239mで、東北地方では北上川に次ぐ長さを誇る大河です。那須川系の甲子旭岳を源に、福島県中通り地方を北流し、阿武隈山北麓の狭い谷間に抜けて宮城県に入り、亶理町荒浜で海に注いでいます。江戸時代には米沢や福島で産する米を運ぶ経路として利用され、沿岸の街は舟運で賑わいました。米は、福島から丸森までは小型の舟で運ばれ、丸森で大型の平田船に積み替えられて、荒浜から外洋を行く東回り航路で銚子(千葉県)へ、さらに利根川水系の水路を遡って江戸まで運ばれました。「阿武隈ライン舟下り」は、舟運華やかになりころの風情を伝える観光遊覧船です。丸森町から山元へ向かう河岸は「阿武隈深谷県立自然公園」にも指定された水と緑の自然美あふれるエリアです。大規模な丘陵地河川景観や、大岩が連なる黒色を立ち上げる断崖などを見晴らしながら、約11km、1時間の船旅が楽しめます。その新緑やヤマザクラの明るく眩しい光に包まれ、夏は涼風につつまつる夏の影を追い、秋は色づいたカエデやブナなど紅葉と黄葉の照り輝きに目を奪われ、そして冬はこたつ舟に乗って、名物「しんじ」を味わいながら水鏡のような岩や断崖を見上げる...渡り舟やトンプの群れ、雄大な阿武隈川の川面からの景色は、やはりひと味違います。「弘法の水」や「龍石」「白衣観音」など見どころをガイドしてくれる船頭さんの水先案内も楽しく、歌って丸森の民謡を聞きながら、川に浮かび、流れにまかせてゆたかと滑るように行く船旅は、四季それぞれに情緒を心に刻んでくれます。乗り合わせた人同士が仲良くなることも多く、また、冬のコたつ舟では船着き場についてもこたつから出たがらない方も多く、見知らぬ同士が「団らん」できるのも阿武隈ライン舟下りの魅力のひとつです。

歳時記

EVENT CALENDAR